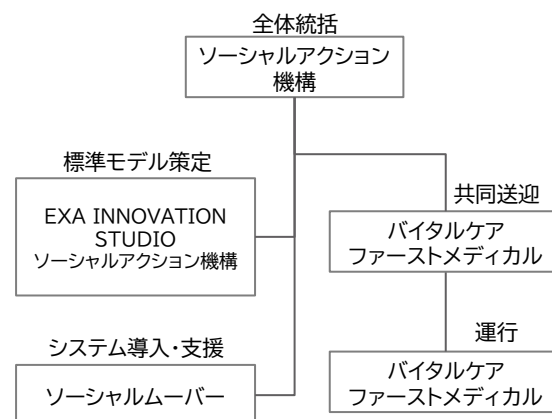


令和8年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」 地域交通DX推進タイプ(2次公募)第1次選定の5事業について

※公募申請時の資料のため、今後、変更の可能性があります。

プロジェクト概要	宮城県名取市(一部仙台市)において、介護施設の送迎車両やドライバーを地域の共有資源として活用し、複数施設による「共同送迎」を実現するプロジェクトである。また、介護施設・自治体・IT事業者が連携し、共同送迎の運営モデルを確立することで、持続可能な地域交通モデルの第一歩を進める。		
課題	● バス・タクシーの減少が加速し、高齢者等の移動弱者の手段確保が困難化。 ● 施設ごとに独立運行する送迎車両は、既存交通の拡充では対応しきれない。 ● 法人を跨ぐ共同送迎の継続には有償運行が不可欠だが、現行の道路運送法制度がその障壁となっており、制度面の柔軟な対応が必要	事業実施自治体・エリア	名取市 増田地区～仙台市太白区
取組内容	● 国交省OSSをベースに、デイサービス送迎業務に必要な標準機能を追加開発する。 ● 適正な費用負担モデルの策定、共同送迎のリスクに対応した保険スキーム(特約追加)を検討。	交通事業者	介護施設が送迎車両を活用: バイタルケア、ファーストメディカル
事業要件	● 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上(標準化)	アプリ・システム等	■ アプリ・システム: オープンソースソフトウェア「施設送迎共同管理システム」 ■ データの活用方法: 業務やデータが事業者間で共通化、可視化される ■ サービス品質向上(標準化): 送迎業務の属人化解消、ヒューマンエラー低減・クレーム削減
技術要件	● 施設送迎共同管理システム	座組	スケジュール
効果	● 送迎業務の負担軽減により、介護サービス提供体制の維持・強化を実現し、将来的な「介護受け入れ難民」の発生を防止 ● 共同送迎の運営ノウハウ、標準業務手順、保険スキームを整理し、全国の介護施設・自治体へ横展開可能な地域交通モデルとして普及を目指す。		



8月～10月 要件定義

10月～12月 システム開発

12月～1月 実証運行

1月～2月 効果測定

プロジェクト概要	会津地域では複数のオンデマンド交通が運行されているが、自治体ごと・運行システム提供企業ごとに予約サービスが分断され、自治体ごとのアプリ導入・個別ユーザ登録が必要で特に観光客には煩雑な状況がある。本事業では標準仕様に準拠した共通APIレイヤーを新規構築し、複数のプラットフォームを疎結合に統合、SamuraiMaaSアプリへ接続し、1つの共通アプリから地域内の異種オンデマンド交通を横断的に予約可能とする。		
課題	会津地域の5市町でAIオンデマンド交通が運行されているが、運行エリアごとに予約サービスが分断。観光客は自治体ごとにアプリ導入・個別ユーザ登録が必要で煩雑な状況がある。	事業実施自治体・エリア	喜多方市、磐梯町
取組内容	- 国交省COMmmONS「デマンドバスシステム連携API標準仕様書」に準拠した共通APIレイヤーを新規開発し、Via・Spare Labs(のるーと)双方のAPIと疎結合に接続する。 - 共通APIレイヤー完成後に会津SamuraiMaaSへ接続し、1つの共通アプリから地域内の異種オンデマンド交通を横断的に予約可能とする。 - 今後Via・のるーと以外のオンデマンド交通システムにも順次対応し、鉄道・バスに加えオンデマンド交通を包含した本来のMaaSを地域全体で実現する。	交通事業者	福島交通会津支社(喜多方市・磐梯町) 喜多方交通、八七ータクシー、山都タクシー、塩川タクシー(喜多方市)
事業要件	システム統合による業務効率の向上(共同化)	アプリ・システム等	■ アプリ・システム:利用者アプリ=SamuraiMaaS ■ データの取得方法: 各デマンド交通システムAPIから共通APIレイヤー経由で取得 ■ データの活用方法: 標準API(デマンドバスシステム連携API)準拠の共通予約基盤を介し、Via・のるーと双方のオンデマンド交通をSamurai MaaSから横断予約
技術要件	デマンドバスシステム連携API標準仕様書	座組	
効果	- 観光客・住民が1つのアプリ(Samurai MaaS)で地域内の異種オンデマンド交通を横断予約でき、自治体ごとのアプリ導入・個別ユーザ登録が不要に(予約導線の一元化)。 - 標準API(COMmmONS準拠)により新規システムの接続コストを大幅削減。GTFS-flexのオープンデータ化で広域の経路検索・データ活用が進展し、持続可能な地域交通に寄与。	スケジュール	8月～9月 要件定義・基本設計 9月～12月 共通APIレイヤー開発 11月～1月 SamuraiMaaS連携・導入 2月 効果測定・とりまとめ

バス業務標準化準拠 車載デバイスやAI技術を活用した運行系業務システムおよび安全管理業務の高度化の技術検証 | 株式会社Will Smart・WILLER EXPRESS株式会社

プロジェクト概要

国土交通省が示すバス業務標準仕様を参考に、Webベース、ペーパーレス、IoT等の最新技術を取り入れたバス業界向けパッケージシステムを新規開発する。既存システムへの標準化仕様の追加改修ではなく、新規開発する運行系業務システムにより拡張性・柔軟性を確保する。WILLER EXPRESS株式会社の安全運転管理システムとの連携を図り、高度な運行管理の実現を目指す。

課題

安全管理、運行管理、旅客向け情報提供システムが分散し、設備投資余力に限られる事業者の負担となっている。運行管理業務やGTFS-RTを活用した情報提供業務の負荷が高く、データを一元的集約するシステムが求められている。具体的には、以下の課題がある。

- 安全運転管理機器やバスロケ機器が複数に分散。運用コストの負担が大きい。
- 情報提供業務が属人化している
- 車両データを活用した運行管理者による安全管理業務の省力化と精度向上

取組内容

運行管理、バスロケーション、GTFS化ツール等を備えた、運行系業務支援システムとして、車載データの取得からクラウド上での一元管理し、運行管理・安全管理・利用者向け情報提供までを一気通貫で実現する。併せて、WILLEREXPRESS社による車両イベントを活用した安全管理業務高度化の技術検証を行う。

- 安全運転管理／旅客情報提供／運行管理とデータを連携した業務システムの開発
- 運行データの一元化による分析・改善・安全対策の高度化検証
- GTFS-Realtimeによる外部情報公開
- 安全管理クラウドシステム「Roots」との連携検討
- AIを活用した運行管理業務の効率化

事業要件

- 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上(標準化)

技術要件

- バス業務標準仕様書

効果

- 業務標準モデルを参考に経済合理性あるパッケージサービスを展開する。既存システム比較し初期導入費(直接費用)およびデータ更新や運用における人件費などのトータルコストを低減する。

事業実施自治体・エリア

都市間高速バス東京発ー芝山町
成田シャトル新木場線（新木場駅⇄成田空港・芝山町役場）

交通事業者

WILLER EXPRESS

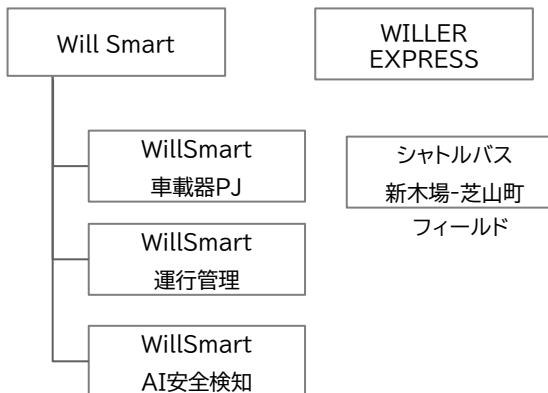
アプリ・システム等

- アプリ・システム:情報提供・FMS・安全運転管理システム
- データの取得方法: OBD型車載システム・ドラレコから取得
- データの活用方法: 運行管理、安全管理の正確性・効率化、情報提供の利便向上

座組

スケジュール

実施主体



- 8月ー9月
システム化要件整理
- 9月-12月
アジャイル型開発/AI駆動型開発/モジュール利用
- 12月～1月
実証検証
- 2月
報告・評価

プロジェクト概要	業界標準仕様「COMmmmmONS」を参考にWeb Base／ペーパーレス等の最新技術仕様を取り込んだバス業界向けパッケージシステムを新規開発する。既存システムに標準化仕様を追加改修するのではなく新規開発により機能拡張性を確保。併せて、バス事業者が求める実務機能を盛り込み、国土交通省が進める政策実行スピードに合わせ試験を完了させ、展開する			
課題	個社ごとの個別最適から脱却し、業界共通の基盤となるバス業務標準仕様が定義されたが、機能拡張性を有したシステムやペーパーレス実現するWebBase型のデータ標準や汎用製品の活用を前提としたクラウド型システムに限られる。当社が新規開発することでバス事業者が低コストで導入可能なシステムを目指す。		事業実施自治体・エリア	長崎市、静岡市
取組内容	バス業務標準化に準拠したバス事業者向け基幹業務プラットフォームをフルスクラッチで開発する。システムは業務毎の機能モジュールに分かれ、既存業務の一部でも導入可能なサービスとする。計画系、運行系、実績集計系の3つのシステムとして開発する。本事業は計画系システムと実績集計系システムについて取り組むものである。 ● 計画系システム： 路線・ダイヤ・車両・乗務員割当の統合管理クラウドシステム ● 実績集計系システム： 実績管理システム、データ処理基盤、乗降実績データ取得モジュール（乗降実績データ標準仕様書に準拠）		交通事業者	バス：長崎自動車、しずてつジャストライン
			アプリ・システム等	■ アプリ・システム：路線・ダイヤ・乗務員割り当ての統合管理クラウドシステム、実績管理システム ■ データの取得方法：標準化共通DBサーバー、オープンデータリポジトリファイル取得 ■ データの活用方法：GTFSデータ作成、実績集計
			座組	
事業要件	● 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上（標準化） ● データ統合によるモード横断のデータ活用（協業化）		● 8月 システム化要件	
技術要件	● バス業務標準仕様書 ● 乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）		● 9-11月 設計・実装・開発	
効果	● 業務標準モデルを参考に経済合理性あるパッケージサービスを展開する。既存システム比較し初期導入費（直接費用）およびデータ更新や運用における人件費などのトータルコストを低減する。		● ＊アジャイル開発/AI駆動型開発	
			● 12月～1月 実証検証 ● 1月～2月 効果測定・評価	

実施主体

WillSmart

WillSmart
計画系システムPJ

長崎自動車

WillSmart
実績系システムPJ

しずてつジャストライン

フィールド

プロジェクト概要	長久手市内を走行する名鉄バスの停留所の時刻表や案内掲示の更新に伴う印刷物の制作や貼替に伴う人的リソースを削減し、バスの利用者に対して従来以上のきめ細やかな案内掲示を可能にする		
課題	地方のバス会社では、ダイヤ改正・変更に伴う時刻表貼替作業に関わる人的リソースの不足を理由にダイヤ変更の頻度や案内掲示物の更新を抑制し、非効率的な運行を継続しているという課題がある。		
取組内容	通信費がかからないバス-バス停間の近距離通信技術を活用したSIMレスで運用可能なデジタルバス停を導入することで、時刻表貼替作業を省人化し、ダイヤ改正・変更に係るコストを低減。柔軟なダイヤ改正・変更による運行効率改善を実現する。 		
事業要件	標準業務モデルの導入によるサービス品質向上(標準化)		
技術要件	SIMレスバス停システム技術仕様書		
効果	ダイヤ改正・変更による時刻表盤面の制作工数及び貼替工数を削減することで、事業者の業務負担を軽減する。本製品の導入により、従来以上にきめ細やかな案内を実現し、バス利用者の利便性の向上に寄与する。		
事業実施自治体・エリア	長久手市		
交通事業者	バス:名鉄バス		
アプリ・システム等	■ アプリ・システム:SIMレスバス停システム ■ データの取得方法: 事業者より提供 ■ データの活用方法: 標柱の表示内容及び配信状況の管理		
座組	スケジュール		
SIMレスバス停調達 小田原機器		8月～9月 要件定義	
交通事業者 名鉄バス		9月～11月 製造・設置	
		12月 導入	
		1月～2月 効果測定	